

# 校長だより

福津市立福間東中学校

校長 猪股 清貴

平成 27 年 12 月 9 日 No37

## 兼好法師の心に迫る



「仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ…」古典の格調高い響きが教室を包みます。本時の学習内容は仁和寺にある法師の特徴を捉えることです。星野先生は「これが分かる手掛かりがこの文章の中にある」と断言されます。生徒たちはその手がかりを見つけようと一生懸命です。「〇組の実力はこの程度なの？」との先生からの言葉に「いやいやこんなもんじゃありません。もうちょっと待ってください。」と生徒たち。軽快なやり取りが続きま

す。右の写真は、自分たちのクラスはこんなもんじゃないと一生懸命に発表する様子です。手掛かりを見つけた教室では、その手がかりを基に人物像に迫っていきます。この后感心したのは、手掛かりの表現を基に想像を膨らませて人物像をまとめていく姿です。渡された付箋に想像できる人物像を書いていきます。プリントはみるみる付箋でいっぱいになります。どの班も与えられた課題に対して真剣に話し合っています。



班の話し合いが終わり、全体交流の時間になりました。どんな人物像が発表されるのかとワクワクしながら聞いていました。すると、各班からの発表の中で少しずつ、法師の姿が明らかにされてきます。しかもそれは、一人で神と向き合おうとする真面目で信心深い人間の姿としてです。

「徒然草」は鎌倉時代末期の 1330 年ごろに兼



好法師によってまとめられたと言われている作品です。また、清少納言の「枕草子」鴨長明の「方丈記」とあわせて日本の三大随筆の一つに数えられています。

本時の授業は仁和寺の法師の人物像を明らかにするとともに、それを描く作者である兼好法師のものの見方や考え方に迫る授業でした。「徒然草」は序段を含め 244 の章段で構成されています。そこにはいろんな人間が描かれています。今と変わらない 700 年前の人間の姿に感動しますよ。是非読んでみてください。

